

二〇三三年七月一八日(参加者七名)

瀬の石を桂馬飛びして避暑散歩
獅子頭めくは瀬石や石菖生ふ
溪流へ病葉紅を散らしたる
溪流の大滝小滝楽涼し
数へ難し清流に透く目高の子
濃紫陽花溪の水辺を明るうす
激つ瀬の巖の苔の月日かな
縮笹群落なせる避暑の径
ブラウスの白も涼しく女学生
グリーンシャワー存分に浴び避暑散歩
錆色の瀬石を覆ふ苔青し
瀬の石のなべて苔むす沢涼し
古家に風連れてくる蜻蛉かな
路地迷ひ幾度も出会ふ凌霄花
檜扇の花生けられて床涼し

うつぎ
うつぎ
うつぎ
うつぎ
うつぎ
小袖
小袖
小袖
小袖
せいじ
せいじ
せいじ
せいじ
もとこ
もとこ
もとこ

たたら踏むこんなところに梅雨茸
よう子

岩間に泡の消えゆく沢涼し
よう子

木洩れ日の揺らぐ瀬波や沢涼し
わかば

くちなはのごとき根方や樹下涼し
わかば

定例会会みのる選

二〇三三年七月一八日(参加者七名)